

「標準放射線医学 第3版」

千葉大学教授 有 水 昇 編集
金沢大学教授 高 島 力

九州大学教授

増 田 康 治

本書は、主として学生を対象にした教科書である。

教科書に必要な条件が幾つかある。それには、1) 将来どのような分野を専攻しようとも必要な、基本的事項は完全に網羅する、2) 放射線科を専攻しないときには必ずしも必要でない、専門的すぎる事項を削除し、実地臨床に即して取捨選択し、より簡潔にする、3) 異常陰影のパターンから、鑑別診断を挙げ、更に必要な検査を手順よく行っていく思考過程を重視する、4) ベッドサイドへ持ち込めるように handy である、などが挙げられる。

本書は、1982 年に初版が出版さ

れたものの第3版である。初版以来、これら教科書に求められている諸条件をすべて満足している、好書である。本書には、X 線、超音波、MR、核医学などによるすべての臓器の放射線診断、放射線治療、そして放射線安全取り扱いと、学生に必須のすべての項目が含まれている。著者は各分野でのそれぞれのエキスパートであり、すべて経験に基づいて書かれているので、情報が豊富である。重要な項目と二次的項目とが区分されており、またわかりにくい事項は表にまとめられている。更に写真が見やすいように紙質に工夫がなされているが、それでも写真だけではわ

かりにくい部分はイラストで示されている。診断の部分では、各臓器とも診断に必要な解剖、正常像、診断に必要な検査法、異常像の読影とその分析と、順を追って書かれているので、放射線診断学での思考過程を学ぶのに相応しいなど、読みやすく理解しやすいように、多くの創意工夫がみられる。また、内容の豊富さに比べて手頃な頁数であり、値段も安い。

本書は更に、1) 最近の進歩の著しい、超音波検査、X 線 CT および MRI の項目は最新の内容にし、2) interventional radiology の項目を新設する、3) 放射線腫瘍学の項では、TNM 分類を 1987 年採用のものに改め、現今の臨床に沿えるように努めている。

このように、本書は学生を対象として書かれているが、研修医の座右の書となることはもちろん、一般臨床医にとっても最新の放射線医学を理解するのに最適な良書である。

B5 判 844 頁 図 383 写真 1404
原色図 9 1988 ¥9,700 円 400

医学書院 刊